

地域包括ケアシステム構築 へ向けた取組事例 ～埼玉県川越市の取組～

認知症施策と家族支援

～自治体の概要～

埼玉県川越市

●地域概況

埼玉県の南西部に位置する中核市で、小江戸川越とも呼ばれる。

蔵造りの風情ある町並みや、明治初期から残る菓子屋横丁、史跡・文化財など歴史的建造物があり、東京からの日帰り観光でも人気の街である。

●人口 347,010人

●高齢化率

65歳以上 22.6%

75歳以上 9.1%



認知症の人と家族を地域で支える！ 認知症支援対策の推進（埼玉県川越市）

介護マーク



- 認知症に関する正しい知識の普及・周知
- 認知症の人の介護者への支援
- 現場の声を反映した「認知症支援について検討する会」での施策の検討

認知症の人・家族

正しい知識の普及・周囲の理解の促進

- パンフレット「**みんなで支えよう 大切な人**」の作成・配布
- 広報川越で年間を通したコラム記事の掲載
- 認知症サポーター養成講座の開催
- 介護マーク貸出事業（H24.6月実施）

認知症の人・家族に対する継続した支援

- 認知症家族介護教室
- 認知症家族介護教室のフォローアップ事業（オレンジカフェなど）
- 市民後見推進事業
- ★ 認知症相談会

つながり

★ 新

「認知症支援について検討する会」による施策の検討
（市・地域包括支援センター・その他関係機関）



～取組の概要～ 平成20年度より開始

取組の経緯

(実施主体) 川越市

(背景・地域の課題)

- ・H20年～認知症サポーター養成講座、H23年～認知症家族介護教室（試行）
- ・若年性認知症の人を介護する市民から「介護マーク」の要望があったことを契機に、地域の理解が必要であること、相談者に対する啓発資料が乏しいこと、介護者自身も何かしたいと思っていること等を知り、市役所と地域包括支援センターが認知症施策について検討
- ・H24年～介護マーク貸出事業、認知症家族介護教室及びフォローアップ事業（オレンジカフェ）、市民後見推進事業、啓発パンフ作成等につながりを持たせて実施することとした。

(取組のポイント)

- 認知症家族介護教室（3回1コース）を地域包括支援センターが開催
- 認知症家族介護教室フォローアップ事業（オレンジカフェ等）
 - ・地域包括支援センターが開催
 - ・オレンジカフェ（月1～2回、2時間程度、通所介護施設や公民館で開催）
 - ・徐々に地域包括支援センター受託法人による定期開催や介護者の自主活動として定着
 - ・特別なプログラムはなく、利用者が主体的に活動
- 市民後見推進事業（市民後見人公開講座（61人受講）養成講座（26人受講））

取組に係る経費・財源

- 市民後見推進事業費（国庫補助） 4,312千円 →社会福祉協議会に委託
- 認知症施策関連事業費（一般財源） 664千円 →地域包括支援センター委託_他

取組に必要なネットワーク

- 実施主体：市役所高齢者いきがい課
- 事業委託先：地域包括支援センター、社会福祉協議会
- 関係機関等：認知症疾患医療センター、地域住民 等



取組の効果

- 認知症家族介護教室及びフォローアップ（オレンジカフェ）
 - ・認知症の人にとって →自ら活動し、楽しめる場
 - ・家族介護者にとって →わかり合える人と出会う場
 - ・専門職にとって →人としてふれあえる場（認知症の人の体調把握が可能）
 - ・地域住民にとって →つながりの再構築の場（住民同士としての交流の場や、認知症に対する理解を深める場）
- 市民後見人養成講座
 - ・定年退職後のシニアや現役のケアマネジャーが受講
 - ・退職者の社会貢献やボランティア活動の動機付けになっている。



オレンジカフェ

今後の展望

- 「認知症支援について検討する会」の立ち上げ
- 認知症相談会の開催（認知症疾患センターの相談員が協力）
- 広報コラム等の活用による住民への周知